

教 育 研 究 業 績

2022年 5月 1日

氏名 稲垣 久美子

学位：MBA, M. Ed., 修士(カウンセリング)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
キャリア教育学、キャリア心理学、 産業組織心理学	キャリア教育、キャリアガイダンス

主要担当授業科目	キャリアデザイン 1, 2, 3 / キャリアデザインⅡⅢ / キャリアデザイン演習 / インターンシップ / ビジネスコミュニケーション概論
----------	---

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1) LMS (光華 navi) e-ポートフォリオの設計・導入・活用	2009年10月 ～2011年3月	全学的な学生ポータルシステムにe-ポートフォリオを構築し、キャリア教育のコアツールとして運用した。
2) ポジティブ心理学モデルを活用したワークショップ型授業の実践	2012年4月 ～2021年3月	ポジティブ心理学モデルに基づく心理教育的なワークショップ型授業を設計し、ワークの体験を通して学生の肯定的な自己観を育むことを支援した。
3) LMS(Learning management System) の活用	2020年4月 ～2021年3月	LMS上のディスカッション機能を活用して、履修者同士がテーマ(ディスカッショントピック)について意見を交換し相互に啓発し合うことを促進した。
2 作成した教科書, 教材 学生 e-ポートフォリオ運用マニュアル	2010年5月	学生支援推進プログラムの取組でLMS 光華 NAVI 学生 e-ポートフォリオを効果的に運用のためのマニュアルを作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 経済産業省 平成 25 年度産業経済研究委託事業「社会人基礎力育成の好事例の普及に関する調査」委員会委員	2013年11月～ 2014年3月	経済産業省が、大学での「社会人基礎力」の育成を推進する観点から、効果的な育成手法を実践している大学のグッドプラクティスを表彰した「社会人基礎力を育成する授業 30 選」事業の委員を担当した。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 資格, 免許		
1) キャリアコンサルタント	2016年10月	第 16258211 号
2) GCDF-Japan キャリアカウンセラー	2009年4月	GCDF02285-JP
3) 中小企業診断士	1990年4月	第 210004 号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1) 『ようこそ! 政治経済学部の世界へ』	共著	2013年3月	明治大学政治経済学部	産業組織心理学、キャリア心理学、生涯発達心理学の領域から、人はなぜ働くのか、キャリアとは何なのか、ライフキャリアという視点に立ってどのようにキャリアを発達させていけるのか、というテーマについて考え、大学生に向けて示唆を与えている。担当部分の題名「働くこと、ライフキャリアを生きること、キャリアを発達させること」P37-49
2) 『今、いちばん大切なこと—新しい時代を開く15の扉』	共著	1999年1月	産能大学出版部	今、いちばん大切なことは何かを自分自身に問いかけ、社会に向かって発信していこうという思いを込めた、未来にかける提言書である。筆者がMBA留学や米国企業の人材開発の現場に身を置いた経験を踏まえ、日本人に対して、多様性を認め合うこと、自分の価値観やビジョンをしっかりとって発言することの必要性を訴え、生き生きと能力を発揮して充実感を感じて生きていける社会の実現を提言している。P26-36
(学術論文) 1) Utilization of Global Talent by A Japanese Company: A Case Study Analysis	単著	2019年11月	International Journal of Management and Applied Science, vol.5, No.11 pp.72-74.	日本では、人口減少や少子高齢化の進展に伴い、企業の人手不足が深刻化するなか、政府による「Society5.0」が進められ、日系企業は高度外国人材をいかに採用するかが重要な課題となっている。本研究は、高度外国人材の採用、定着、活用を進めることによって企業の成長を加速させた日系企業に焦点を当て、その成長過程をケーススタディ手法によって明らかにした。
2) 個人のダイバーシティ開発を促す授業実践	単著	2019年9月	経済教育 第38巻第1号 pp.39-42.	グローバル化の進展に加えて近年の構造的な労働力不足を背景に、職場のダイバーシティ推進が進み、多様な人々の様々な違いを尊重し受け入れ、活かしていく「ダイバーシティ&インクルージョン」が掲げられるようになった。本稿では、ダイバーシティを「個人の特性」という視点で捉え、一人ひとりの自分らしさを引き出して個人のダイバーシティ開発を促しながら、協働的学習によって相互成長を図る授業実践を取り上げ、考察した。
3) 初年次生に向けてのキャリアガイダンスに関する一考察 —人生100年時代をいかに生きるか—	単著	2019年3月	初年次教育学会誌 第11巻第1号 pp.71-78.	大学初年次生を対象に「人生のマルチ・ステージ・モデル」を基盤に、人生100年時代をどう生きるか、学生たちのマインドに働きかけ、学生自身がキャリア形成の在り方を考えるキャリアガイダンスプログラムを開発し、実施し、その効果を検証した。本プログラムは、ワークショップ形式により、レクチャーと3つのワークにより構成され、学習者同士が相互に作用し合いながら能動的に学び、ねらい通りの効果があったことが示唆された。

4) Current State and Perspectives on Career Development in Japan	単著	2016年12月	International Journal of Management and Applied Science vol. 4, No. 12 pp. 22-24.	従来の日系企業では、年齢と組織での職位・資格・等級が連動する「ライフステージ」と「キャリアステージ」が組織視点から同期・統合されるキャリア開発システムが確立されていたが、企業を取り巻く環境変化により、従来の「ライフステージ」と「キャリアステージ」の同期・統合は崩壊した。本稿では、組織視点と対比させ、個人が自らのライフキャリアを構築する自律的キャリア開発モデルを提示し、その必要性を説明している。
5) ポジティブ心理学ワークを取り入れたキャリア教育の実践ー肯定的な自己観をいかに育成するか	単著	2014年5月	大学教育学会誌 第36巻第1号 pp. 161-168.	大学のキャリア教育科目「キャリアデザイン」において、ポジティブ心理学に基づき開発された心理教育的介入プログラムを導入し、肯定的な自己観の育成と職業意識の向上を目的とした授業実践を行った。授業の初回と最終回で心理変数の変化量を測定し、効果測定をした結果、統計的に有意な得点の向上が示され、ポジティブ心理学に基づくさまざまなワークを通して履修者が自己理解、自分らしさの感覚を深めたことが示唆された。
6) Current Situation and Challenges for Japanese Universities: The Necessity of Career Education	単著	2013年12月	Advances in Education Research vol. 46, pp. 37-43.	近年、日本において、大学でのキャリア教育が重要性を増している背景として、日本政府のキャリア教育施策について述べ、その方法論として「生涯にわたるキャリア形成支援」という社会全体へのアプローチの在り方を考察している。
7) 仕事と社会の理解を促す『社会人インタビュー』	単著	2011年3月	横浜美術大学教育研究紀要 Vol. 1 pp. 125-134.	大学生を対象にしたキャリアデザインの授業で「身近な社会人へのインタビュー」を実施した。学生は社会人がどのような気持ちで働いているのかについての話を聴く「間接・外的・内的体験」を通して、さまざま「気づき」を得て、さらにその体験のクラス共有によって学生同士が影響し合い、新たな「気づき」が生まれるという2段階の「気づき」のプロセスを経て、仕事と社会についての理解が促されたことが示唆された。
8) 美大生のキャリア形成ー他者との出会いによる気づき	単著	2010年3月	横浜美術短期大学教育研究紀要 Vol. 4 pp. 77-80.	美術を専攻する学生を対象にした「キャリアデザイン講座」において、グループワークによる学生同士の相互影響による「学び」の効果を実証的に検証するために「振り返りシート」の内容分析を行った。初回時と最終回の授業で比較した結果、学生グループワークによる他者との出会い、交流を通して、様々な気づきを得て学びを深め、成長した自分を実感していることが明らかになった。
9) 美大生のキャリア意識	単著	2009年3月	横浜美術短期大学教育研究紀要 Vol. 5 pp. 82-85.	美術を専攻する学生を対象にキャリア意識に関する調査を実施した。その結果、将来の進路について考えてはいるが、自分の長所や適性、働くことの意味などについて他者と話し合う機会が少ないこと、また、社会で活躍している人について知りたいと思っても、そのための行動をとっていないことなどが報告された。他者と意見を交換し合う機会、人とコミュニケーションをとる力を伸ばす必要性が指摘された。

(学会発表)				
1) 生徒が仕切る三者面談－スウェーデンでの「学ぶことを学ぶ」教育実践事例	単著	2019年11月	日本キャリア教育学会第41回研究大会研究発表論文集 pp. 10-11.	生徒・教師・保護者が信頼し合うチームになって、子どもたちの学びに向けての態度を育て「学ぶことを学ぶ」教育実践の好事例として、スウェーデンの公立学校で毎学期実施されている生徒・教師・保護者の三者面談の事例を報告した。
2) 「ダイバーシティ推進」がなぜ進まないのか－アンコンシャス・バイアス」への気づきを促す授業実践	単著	2019年9月	経済教育学会第35回大会報告要旨集 pp. 58-59.	「ダイバーシティ推進」の阻害要因とされる「アンコンシャス・バイアス」への気づきや認識を深めることを目指した教育実践について発表した。
3) 人生のマルチステージモデルに基づくライフキャリアガイダンス－大学低年次生を対象にした授業実践－	単著	2019年6月	大学教育学会第41回大会発表要旨収録 pp. 136-137.	大学低年次生を対象にした人生のマルチステージモデルに基づくライフキャリアガイダンスの実践報告を行った。
4) スウェーデンの学校では何を指してどのような教育が行われているのか	単著	2018年12月	日本キャリア教育学会第40回研究大会研究発表論文集 pp. 212-213.	スウェーデンの学校教育について、現地視察をもとに、ストックホルム近郊のボー・ゴード学校とサム・スコラ学校でどのような教育が行われているのかについての事例報告を行った。
5) 大学は何を目指して何を教え、企業は入社後に何を教えているのか－近年の教育変遷と考察－	共著	2018年12月	人材育成学会第14回年次大会論文集 pp. 41-46.	大学教育と企業での新人教育との間に生じているギャップ、課題を明らかにし、その接続がどうあるべきかについて発表した。 (共同執筆者：金澤元紀)
6) 教えない授業－社会参加をテーマにした体験学習からの学び－	単著	2014年11月	日本キャリア教育学会第36回研究大会研究発表論文集 pp. 180-181.	慶應義塾大学SFCキャンパスが1990年代に開講されてから毎年開講されている社会参加をテーマにした体験学習型授業の概要とその成果について発表した。
7) A Career Education Program Based on Positive Psychology	単著	2014年3月	Proceedings of the Second International Conference on Education, Economics, Psychology and Society.	近年、日本では、大学生を取り巻く環境の変化によって、大学教育においてキャリア教育の必要性が言われるようになった。本研究では、日本文化の特質を活かしながら、最善な人間のあり方を研究する新しい心理学の流れであるポジティブ心理学モデルに基づくキャリア教育プログラムを日本の大学生を対象に実施し、その効果を検証した。その結果、本プログラムによる自己肯定感の向上が示唆された。
8) 短期大学におけるキャリア教育実践事例	単著	2010年12月	人材育成学会第8回年次大会論文集 pp. 273-278.	文部科学省の学生支援推進プログラムにて採択された京都光華女子大学短期大学部のキャリア教育の取組の効果について発表した。
9) e-ポートフォリオを活用したキャリア教育の実践－週間ポートフォリオ運用の試み－	単著	2010年11月	日本キャリア教育学会第32回研究大会研究発表論文集 pp. 172-173.	京都光華女子大学短期大学部でのe-ポートフォリオのなかの「週間ポートフォリオ」を活用したキャリア教育の取組の効果について発表した。
10) 女性のキャリア発達におけるトランジションに関する研究	単著	2010年10月	日本キャリアデザイン学会第6回研究大会資料集 pp. 40-43.	女性が生涯にわたるキャリアのトランジション期をどのように乗り越え、自らのキャリアを発達させていくのかについて研究結果を発表した。

11) 社員と企業リーダーのメンタルヘルスとメンタリング認知についての調査研究	単著	2009年9月	日本キャリアデザイン学会第6回研究大会資料集 pp. 40-43.	民間企業の社員と企業リーダーを対象にしたメンタリング認知と精神健康度に関する調査を実施した結果、メンタリング認知が精神健康度にプラスの影響を与えたことが示唆された。 (共同執筆者：鈴木裕子)
12) ライフキャリアにおける転機に関する調査研究	共著	2006年8月	日本産業カウンセリング学会第11回大会論文集 pp. 84-87.	キャリア上の転機に着目し、人が転機をどのように受け止め、どのような態度と行動で望むのかについての実証研究結果を報告した。 (共同執筆者：大橋仁、長洲恵美子)
(報告書) 1) 「大学教育・学生支援推進事業」最終報告書	共著	2011年3月	京都光華女子大学短期大学部	「大学教育・学生支援推進事業」【テーマ B】 学生支援推進プログラム採択 「短期大学士力養成のための具体的実践としてのキャリア教育の推進」 最終報告書
2) 欧州教育視察報告書	共著	2018年12月	PBL 研究所	スウェーデン、フィンランド教育視察報告書

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。